

～初公開の自筆原稿も～

## 作家・井伏鱒二の「風流三昧」

杉並区立郷土博物館（大宮1-20-8）にて、10月31日より準常設展「杉並文学館 -井伏鱒二と阿佐ヶ谷文士- 風流三昧」を開催します。今回は特別展示として、井伏の自筆原稿「コンプラ醤油瓶」を初公開。長崎県教育委員会の協力により、長崎で発掘された本物のコンプラ醤油瓶も同時に展示します。

関東大震災後の昭和2年（1927）、荻窪に居を構えた井伏鱒二は、以後亡くなるまでの60余年をこの地で過ごし、近隣に住む「文士」と呼ばれた作家と交流しながら、数多くの作品を世に遺しました。本展では、井伏鱒二と、彼と交流のあった青柳瑞穂、上林暁、外村繁、太宰治など「阿佐ヶ谷会」の文士の作品や交流を紹介します。



▲『コンプラ醤油瓶』自筆原稿

また、今回は特別展示として、井伏の「趣味」の世界に焦点を当てました。書画、骨董、釣り、将棋など、多趣味で知られた彼の活動は、自身の随筆などにも反映されています。なかでも、骨董趣味から執筆したものと思われる「コンプラ醤油瓶」（昭和34年『国立博物館ニュース』掲載）の自筆原稿は本年6月に当館に寄贈され、今回初めての公開となります。江戸時代に長崎で醤油輸出に使われた瓶について書かれたこの随筆は、井伏の焼物に対する造詣の深さがうかがえる逸品です。本展示では原稿を全てお読みいただけるほか、長崎県教育委員会の協力により、長崎西役所跡（江戸期の長崎奉行所）で発掘された本物のコンプラ醤油瓶も同時に展示します。



▲コンプラ醤油瓶

自筆原稿のほか、直筆の絵付け猪口や油絵、収集した古備前の壺など、井伏が遺したものたちを数多く展示し、趣味人・井伏鱒二の「風流三昧」の生活を堪能していただける特別展示となります。

### 準常設展「杉並文学館 -井伏鱒二と阿佐ヶ谷文士- 風流三昧」

【日時】10月31日（土）～12月6日（日）午前9時～午後5時

（休館日：11月2日（月）・9日（月）・16日（月）・19日（木）・24日（火）・30日（月））

【会場】杉並区立郷土博物館（大宮1-20-8）

【観覧料】100円（中学生以下は無料、20名以上の団体は一人80円）

#### 【問い合わせ先】

杉並区立郷土博物館：03-3317-0841

総務部広報課：03-3312-6855（直通）